

みんなの文芸



俳句

うらほる俳句会

久々に歌いて胸に雲雀くる
鳩尾の下へ帯び置く春恰
春日和しまい忘れた猫の舌
椿葉の香りほのかやにぎりめし
生きる涯使い果たすも春巡り
年輪の粗さでからから春が行き
彼岸会を待つかのように胡蝶蘭

井下まさの
大山みどり
黒田ちえこ
柴田 岱華
菅谷 日月
福原 仁子
山村 幹雄

川柳

浦幌川柳会

課題吟 読む
春愁に思い巡らし読む余白
一々と心読んじやだめだから
なつかしむランプ引き寄せ読んだ本
聞き違い読みまちがえの多いこと
読むうちにだんだんにじむ老眼鏡

阿部 麗紅
加藤 未貴
橋本 葉子
大山 研
山村 幹雄

川柳

上浦幌句の会

手を合わせ何を願うか目を閉じて
ハイタッチ曾孫と交わすぬくもりか
朝霧も美しく流れ太陽光
春日より青葉の香りそよ風に
庭先の雪もだんだん去りていく
目の手術終えて見上げる空青し
合格で春一番の桜咲く
親よりも先に逝く娘に涙枯れ
だんだんと春の足音が聞こえるよ
春まつり皆で拝み豊作を

高橋 幹雄
笹島カヨ子
河村みよ子
芳川 乙美
加藤 明敏

短歌

心友愛会

会の人気持はみんな一つなり
手と手をつなぎ楽しく過ごす
春が来て種芋切りが初仕事
働く事を体に願う
ふくじゆそう雪の中から顔を出し
春が来たよと気持ちあふれる

小川 房子
小原 春江
中田 麗子

山菜も友と食べあいたるのそこ
雪とけまつて山ねぎとりに
朝起きて外には雀餌を食べ
それ見た子猫おっぼふりふり
足腰がだんだん弱く気になりて
食べる事にはおとらず同じ

浅野 京子
山岸 明美
小澤 つや

春が来て何かに付けて晴れ姿
希望にあふれ良き卒業生
枯れ草がダンスのように飛んで舞う
我が身もいつか踊つてみたい
母のごと子等を見つめる眼差しよ
慈愛あふるる上浦ティーチャー

前川 静江
堀井あやの
佐藤 成子

編集後記

■表紙の写真は、厚内幼稚園の入園式の写真です。今年には1人が入園となりました。4月に厚内に来たばかりで、最初は表情が硬く、緊張しているのかなと思いましたが、在園児の歓迎の歌が始まると「一緒にやりたい」と一緒に踊り始めました。在園児たちも初めからまぎって歌う練習をしてきたかのように受け入れて、みんな笑顔。やっぱり子どもは友達を作る天才ですね。

■ゴールデンウィーク間近となりました。せっかくの連休なので、有意義にしたいと思うのですが、毎年計画を立てようと考えている内に連休を迎え、せめてドライブでも行こうかと考えても、どこに行こうか考えている内に連休が終わります。結果、「家でのんびり過ごすのも贅沢だね」と言い訳をして終わるのが私のいつもの連休。最近では無計画を計画しているんだと自分を納得させるスキルを身に着けました。(山)

■掲載された写真は、差し上げますので(本人または家族)、お気軽にご連絡ください。